

組合員数100,070人
支部数 936
読者数 63,674人
(連絡先) ☎03(5978)2751 FAX03(5978)2777
E-mail/honbu@nenkinsha-u.org
ホームページ/年金者組合と入力し検索して下さい。

(4月月報)

年金者しんぶん

第414号 2024年6月15日(土)
(通巻第613号)

全日本年金者組合中央本部

〒170-0005東京都豊島区南大塚1-60-20天翔大塚駅前ビル
発行人 杉澤 隆宣 月刊1部100円(組合費を含む)
昭和57年6月30日第三種郵便物認可



全国の仲間の 見舞金被災の仲間たちに

地震4カ月半以上たった今も被災当時のままの輪島朝市

杉澤委員長ら訪問 石川共同センターにも見舞金

中央本部の杉澤隆宣委員長と木田保男書記長は5月14日、能登半島地震被災地の石川県本部を訪問して、全国から寄せられた見舞金を手渡しました。1月23日に次ぐ2回目の訪問で、その後「羽咋市災害ボランティアセンター」と石川県労連を訪問、石川県災害対策連絡会にも見舞金を手渡しました。



杉澤委員長から見舞金を受けとる小倉石川県本部委員長(左)

杉澤委員長から見舞金を受けとる長曾石川対連事務局長(左から2人目)



被災の仲間たちに呼応！ 月間で飛躍全国で

国は生活再建の後押しを
地震発生から4カ月半以上経過した今も輪島朝市の跡地は被災直後のまま。
自治体の職員不足も復旧・復興の遅れの要因です。穴水町は対応できないとボランティアセンター

杉澤委員長と木田書記長は、石川県本部の小倉恵美委員長と藤田敏書記次長とともに、西健康福祉友の会の「えがお会館」に行き、参加した組合員の前で石川県本部委員長に見舞金を手渡しました。
小倉委員長は「全国の仲間からの大きな励ましを被災地の組合員さんに届けます」と受けとりました。
杉澤委員長らは、参加した被災組合員らと懇談したのち(詳細別項)、

羽咋市の支援共同センターから石川県労連に行き、石川災害対策連絡会の長曾輝夫事務局長に「共同支援センターの活動に役立ててほしい」と見舞金を渡しました。

550人組織へ前進めぞす 石川県本部 サークル活動のつながり生かし

石川県本部は月間中の現時点で506人と26回大会現勢を上回っています。4月の準備月間で各支部に仲間増やしを提案し、一人一人の組合員に寄り添った活動が

起。地震で支部会議が開けない支部もあり、被災者が市外に避難している連絡がつかない組合員もいました。一人一人の組合員に寄り添った活動が求められています。
県本部として、支部主催の春の旅行やレクリエーションなどのつながりを生かし、また県本部主催のグラウンドゴルフ大会や青空支部交流集会な

珠洲市から杉澤委員長との懇談(5月14日)に参加の坂東さん(左)は、自宅の8割が壊滅、家族3人は降伏した地難所にも行けず、パチンコ屋の駐車場で一晩を過ごし、翌日避難所の公民館に。
ところが避難所で本日はインフルエンザに、娘さんはインフルは、10メートルも移動した家があると語りました。また、液状化のため地図上では真赤に塗られており、今でも砂の混じった水が地表に浮き上がって、現在娘さんが当たり、現在は娘さん

風雪

日本のマスコミは「真実を伝える」権力を監視すること

を失っているのではないか。報道の自由度ランキングは、180カ国中70位。

▼国境なき記者団は、日本は報道の自由は尊重されているとして、「政治的圧力や男女不平等により、ジャーナリストが監視機能を十分に果たせないことが多い」とも警告。

▼報道機関は、権力監視をし、権力に屈しないことが求められる。2012年以降安倍政権下などで、特定秘密保護法、安保法制、共謀罪法、経済秘密保護法など、戦争するための立法を強引に成立させた。

▼「年金者しんぶん」6万4千部、各都道府県本部の機関紙、各支部の機関紙を合計すれば20万部を超えていると思われる。暮らしと平和を守るための貴重な機関紙活動である。

▼仲間と機関紙の拡大が、世の中を変える力となる。